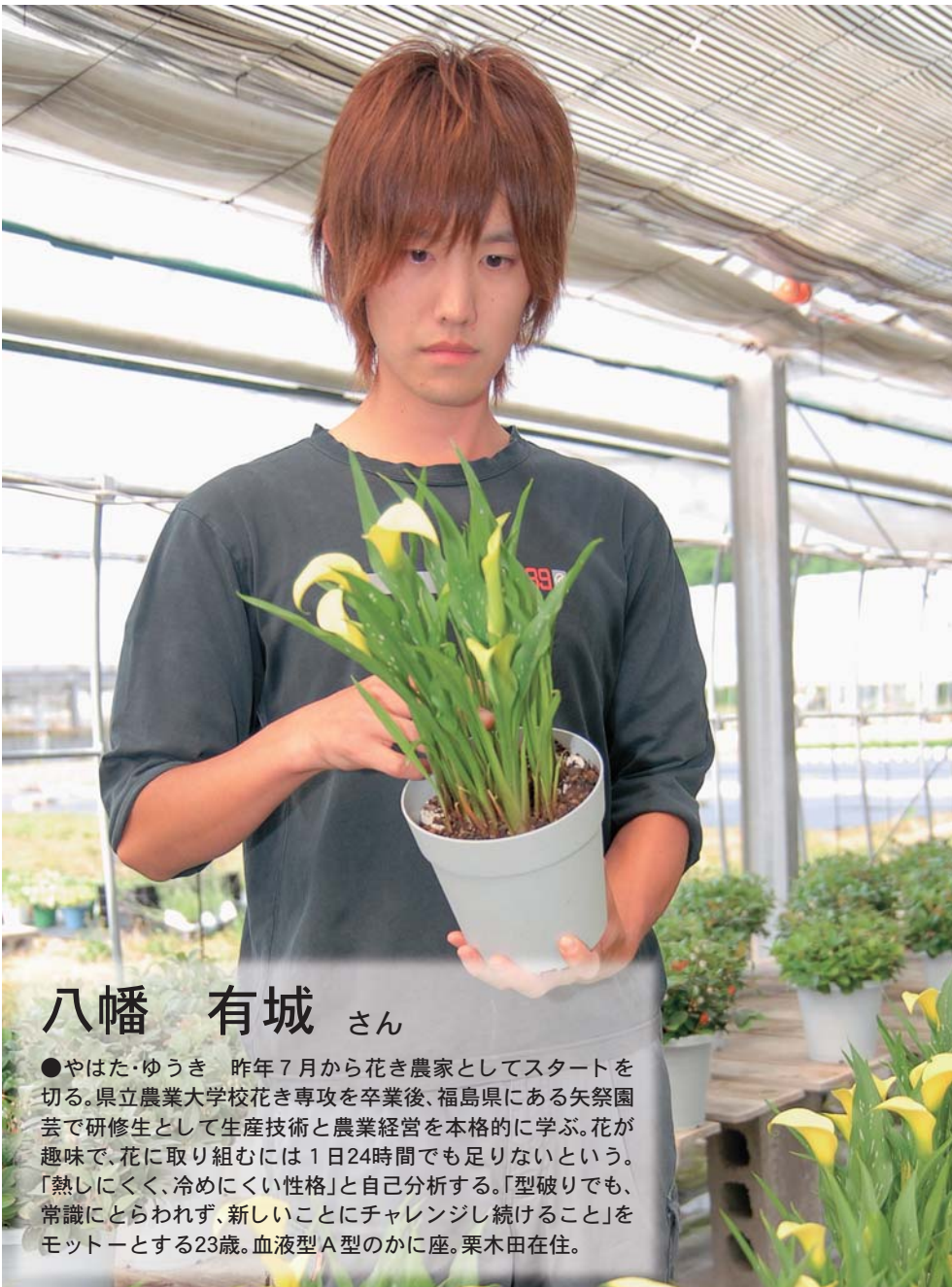


# Zoom Up

## 人

型破りなくらい  
遊び心を持ち続けることが  
農業家としての自分のスタイル



### 八幡 有城 さん

●やはた・ゆうき 昨年7月から花き農家としてスタートを切る。県立農業大学校花き専攻を卒業後、福島県にある矢祭園芸で研修生として生産技術と農業経営を本格的に学ぶ。花が趣味で、花に取り組むには1日24時間でも足りないという。「熱しく、冷めにくい性格」と自己分析する。「型破りでも、常識にとらわれず、新しいことにチャレンジし続けること」をモットーとする23歳。血液型A型のかに座。栗木田在住。



### 父

の真似をして遊んでいたことから始まった花の栽培が、いつしか将来の夢となり、そして現在の職業となっている。家業だからではなく、花にける熱い思いがあるからこそ、この道を選んだのだ。

県立農業大学校で花の基礎を学んだ後、さらに自分を磨くため、福島県にある有限会社矢祭園芸で1年3カ月ほどの修行を積んだ。次世代を担う若者の育成にも力を入れている矢祭園芸では、毎年多くの研修生が花の生産から経営までを学んでいる。有城さんもそこで同じく花き農家を志す仲間と互いに鍛え合いながら、知識と技術を磨いた。

も驚かされる。負けてはいられないという気持ちで、有城さんの花への情熱はさらに燃えあがる。

興味を持ったことに対しては、「とことんまで熱中してしまふその性格から、花のことになると父ともたびたび衝突してしまふという。父が積み重ねてきた経験と、自身が思い描く理想とがぶつかり合う。覚悟はしていたが、譲れない花への思いがある。そのためなら、真正面からでもぶつかっていく。そんな姿勢からも、有城さんの花にかける情熱が伝わってくる。

「意識しているのは、決められた作業の中で、どれだけ遊び心をもってやれるかということ」。そう語りながら、有城さんは目を輝かす。遊び心の中から生み出される新たな発想を大切だと考えているからだ。今、構想しているのは、花の生産から、鉢のデザイン、パッケージまで、商品としての「花」を総合的にデザインし、販売すること。そして消費者を魅了する商品をつくることに近い将来の夢だ。

型にはまらない、新しいスタイルを目指し、遊び心あふれる農業家は、どんな花を咲かせていくのだろうか。